



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 吉田利弘

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

新理事長に吉田氏(絵画部)

**任期満了、理事会で投票選出
直前の定時総会で新役員承認**

令和4年度の宮城県芸術協会定時総会と役員改選に伴う第2回理事会が5月21日、仙台市福祉プラザで開かれた。新型コロナウイルスの感染者数が高止まり気味の中、防止策を講じつつ、通常の形式で実施した。総会では新役員(理事・監事)の選任など2議案を可決。役員の承認を受けて、総会直後に開かれた理事会で、吉田利弘理事(絵画部)を新理事長に選出した。

理事会には理事16名と監事2名が出席。理事長選挙は全理事を対象に実施し、これまで総括担当執行理事を務めていた吉田氏が1回の投票で過半数を獲得した。執行理事は理事長を除く理事16名を対象に「5名連記」方式で投票を行い、理事長選同様、1回の投票で名簿の通り選出、芸協をけん引する常任理事会の新たな陣容を決めた。難しい時代のかじ取り役を担う吉田理事長は「身の引き締まる思い。監査報告書に示された通り課題は明白。画餅に帰すことのないよう、心を一つに取り組みたい」と、決意を語った。理事会に先立って開かれた総会では、司会の吉田執行理事(当時)が委任状提出を含めて出席者が1199名で、総会成立の定足数(会員1843名の過半数)を満たしていることを報告。零石隆子理事長(同)のあいさつに続いて、金澤孝一(文)

業報告及び収支決算を報告した。議案は第1号「令和3年度事業報告及び収支決算について」、第2号「役員の選任について」の2件。第1号議案は既に理事会で承認され、岡本勝監事(文芸部)が佐藤光郎監事(絵画部)との調整により代表して、適正に執行されている旨の監査報告を行った。質疑、採決の結果、2議案は可決、承認された。

◇新役員(敬称略。太字は初。カッコ内は所属・担当)
【理事長】吉田利弘(絵画)
【執行理事】佐藤皖山(総括、邦楽)、西村一観(事業、華道)、若柳梅京(同、舞踊)、佐藤淳一(財務、彫刻)、菅原宗初(同、茶道)【理事】及川英之(絵画)、浅野治志(工芸)、太田蓮紅(書道)、加納鳴鳳(同)、熊井雅美(洋楽)、篠沢亜月(文芸)、西恵美子(同)、清水道玄(茶道)、加藤友一(写真)以上各部推薦
彦(学識経験者)、亀井文行(同)以上理事会推薦
【監事】岡本勝(文芸)、佐藤光郎(絵画)以上理事会推薦

コロナ禍が依然終息せず、常軌を逸した大国の隣国への侵攻が続く中、諸事業に携わる折々に、理事長の責任の重さを実感いたしております。

芸術文化の送り手と受け手の交流は、人の心に感動や安らぎの風を注ぎ、希望へと向かわせる精神的活動と言われてきました。それが豊かな感性を育み、生きる勇気呼び起こし、人が人らしく生きるための「心の糧」になるとも言われています。

以前にも触れましたが、コロナ禍のイタリヤの病院屋上で日本人女性が奏でたバイオリンの音色に、そして仙台市内でも度々催されるウクライナ支援の演奏会に、癒しと共鳴の心が響き合い、芸術文化の持つ力の大きさを再認識させられました。

本協会は12の部門、1800余名の正会員を有する大きな組織。1964年に発足し、間もなく創立60年を迎えます。宮城

芸術文化の価値内外に発信



宮城県芸術協会理事長 吉田利弘

ただ、本協会は社会の縮図のようなもの。当然、変化を免れず、会員数の減少、高齢化、事務所ビルの老朽化、職員の労働環境の整備等々、具体の事実として顕在化いたしております。

こうした現況を会員全体で共有し、課題の克服に努めてまいりたいと考えています。もとより、現状を改善しつつも、良い育んだ、その良さを生かす

道も探っていくかねばなりません。時勢、芸術文化に対する再評価の風も吹いております。潮流をがっちり引き寄せる構えで、その価値を内外に示していく使命を果たすべく、些事も受け止めながら、確かな経営に臨んでまいります。ご理解、ご協力よろしくお願いたします。

新執行部 緊張の船出

厚い信頼、手腕に期待

本年度第2回理事会で、新執行理事5名が選出された。うち新任は2名。経験豊かな重任(再任)の3名とともに常任理事会

のメンバーとして新理事長を支え、結束して組織全体の運営に当たる信頼の厚い布陣。手腕に期待も高まる。協会を取り巻く環境は大きく変わり、組織の高齢化も進む。諸課題に立ち向かう各執行理事に抱負を聞いた。

「今を生き切る」気持ちで

佐藤皖山執行理事(総括・邦楽)

執行理事に就任して5年目。コロナ禍のため、活動自粛が続けてきましたが、昨今、明るい兆しが見えてまいりました。「これからの芸術文化」を深く掘り下げ、各部門と切磋琢磨し、共に高揚する術を探る。「真の芸」を求めるのは今しかない。「今の今を生き切る」という気持ちで任期を全うしたいと思います。よろしくお願いたします。

財務の経験、事業に生かす
西村一観執行理事(事業・華道)

執行理事を初めて拝命したのはコロナ禍中の2年前。その時の財務担当としての経験を生かして協会の事業に臨んでまいります。任期中に東北・北海道芸術文化団体協議会が創立50周年を迎え、令和6年には当協会の60周年が控えております。アフターコロナの動向も見据え、模索を重ねながら記念事業に向き合いたいと考えております。

ウイズコロナ、対応を模索
若柳梅京執行理事(事業・舞踊)

この度、執行理事を拝命し、芸術協会の歴史と先人の想いを改めて実感して身の引き締まる思いです。宮城県芸術祭をはじめとするさまざまな事業を、「ウイズコロナ時代」にどのように進めていくべきか模索を重ねながら、協会の60周年に向けて微力を尽くしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

心を温める光となる活動を
佐藤淳一執行理事(財務・彫刻)

仙台での初個展開催の折、故土屋瑞穂先生から芸協にお誘いいただき、以後40年、運営委員、部長、理事として公益法人化のお手伝いにも関わり、今回、執行理事として協会万般の運営に加わることになりました。この地域の芸術活動が、人々の心を温める光となり続けるよう、皆さまと共に歩んでまいりたいと思います。

60周年に向け心に残る年に
菅原宗初執行理事(財務・茶道)

財務担当は3度目。令和3年度決算がまずまずだったことに安堵しております。諸事業における各部の真摯な対応の賜物で、会員皆さまのご協力に感謝を申し上げます。当協会が抱える難題は山積みですが、今任期中も気を引き締め、創設60周年記念事業に向けて、お力添えをいただき、心に残る年になるよう盛り上げてまいります。

栗石前理事長、名誉会員に 参事に渡部、岡崎、建部、千葉、坂内5氏

5月21日の理事会で、前理事長で文芸部に所属する栗石隆子さん(仙台市)の名誉会員への推薦が承認され、本人の承諾により、就任が決定。前執行理事(洋楽部)の渡部勝彦さん(仙台市)、前理事(茶道部)の岡崎宗豊さん(同)、前理事(書道部)の建部恭子さん(多賀城市)、元理事(同)の

千葉蒼玄さん(石巻市)、前理事(文芸部)の坂内佳禰さん(仙台市)の参事就任も決まった。栗石さんは、川柳の普及、発展に尽力。一般社団法人当時から役員を担い、公益社団法人移行後、執行理事に選出され、平成30年から2期、4年、理事長を務めた。法人の運営、芸術文

化の振興に多大の貢献をした。渡部さんは洋楽部長を務めた後、執行理事4期、8年。岡崎さんは書道部副部長を務めた後、理事を1期。千葉さんは一般社団法人当時、理事を務め、書道部長を4期、8年。坂内さんは文芸部副部長の後、理事を3期、6年。いずれも部の発展を支え、法人の役員として、協会全体の運営に貢献した。

講演では笑いの土壌が乏しいとされる東北の地で、落語を対象に「演芸の木を育てる」ことの意義を強調した。困難を承知の上の船出。コロナ禍の試練にも遭遇した。それでもめげず、目標に突き進む「笑いの仕掛け人」の心意気、行動力には学ばべきことが多い。

白津氏招き、記念講演会

「花座」席亭、笑いとともに

定時総会恒例の記念講演会が5月21日、仙台市福祉プラザで開かれた。講師は当協会の賛助会員で落語の寄席、魅知国定席「花座」席亭の白津守康さん(仙台市在住)。落語に通じた講師



れた講演となった。

らしく、まぐらに小断による自己紹介を置き、なぞかきで締めくくるなど、笑いに包ま

演題は「東北に演芸の木を育てる」。約1時間、ホワイトボードを使いながら、落語との出会い、花座開設の経緯から芸術が醸し出す地域の魅力まで話を広げた。断家をほうふつさせる話術で笑いを誘い、落語と寄席をもっと楽しもうと呼び掛けた。白津さんは会社を経営する起

育て、大輪の花を咲かせよう。芸協の使命は「芸術の花を咲かせる」こと。当協会の応援団による心に響く発言と野心的な活動を励みに、連携を深めて、宮城の芸術文化の木を

第59回宮城県芸術祭 異例の7月開幕

熱い作品 暑く鑑賞



テープカット

華道展

書道展

「芸術の秋」ならぬ「芸術の夏」が幕を開けた。「第59回宮城県芸術祭」が7月9日、せんだいメディアテークで始まった。展示会場の大規模な改修工事に伴って、例年の9月下旬開幕の日程を大幅前倒ししての実施。勝手の違いを乗り越えて、

華道、書道（9〜12日）を皮切りに展示系催事が続いた。新型コロナウイルス感染症対策で茶道は今回も見送られるが、長唄演奏会が実施に向けて準備が進むなど、芸術祭はコロナ前の状態にまた一歩近づいた。

コロナの動向を慎重に見定めつつ、各種の規制が一定程度、緩和されている状況を受けて、昨年見送った開会式も実施。初めて会長兼実行委員長を務めた吉田利弘理事長が開会のあいさつ。名誉会長の郡和子仙台市長（金子雅市文化観光局長・代理出席）が祝辞を述べた。感染防止に努めつつ、式典を盛り上げるテープカットが復活。華やいだ雰囲気を持ち込む形で、出席者らは早々、第1期の華道、書道の展示会場を回った。

開幕と同時に、待ち望んでいたファンらが続々と訪れ、情熱を注ぎ込んだ芸術作品を堪能していた。

メディアテークでは、華道、書道の後、第Ⅱ期の写真展、写真公募展「フォトサミット in Sendai 2022」、絵画展（公募の部）、彫刻展、彫刻公募展（7月16〜19日）、第Ⅲ期の絵画展（23〜26日）を組み込んだ。今後、音楽コンクールガラコンサート（9月25日、日立システムズホール仙台）が計画されている。

テムズホール仙台、長唄演奏会（10月16日、トークネットホール仙台）、文芸祭（10月22日、東京エレクトロンホール宮城）、音楽会（10月28日、日立システムズホール仙台）、工芸展、（併催「杜のみやこ工芸展」と共に11月9〜13日、TFUギャラリーミニモリ）を予定。年明け後の2〜3月には、日立システムズホール仙台でピアノ、ヴァイオリン2部門の音楽コンクール（予選、本選）が計画されている。

応募者数、作品数増える 周知徹底の成果、質も上々

「フォトサミット in Sendai 2022」の応募状況がまとまった。応募者は279名、応募点数は1222点で、2年度目の昨年を43名、167点上回った。

宮城県芸術祭の一環ながら一昨年、河北写真展と統合、継承し、全国公募展として再出発。新しさが受けたと思われる第1回こそ下回ったものの、今回、



大きく盛り返した形。ポスターを制作、各所に配布するなど、応募の呼び掛けに努めたことが、一定の成果を生んだようだ。

今回は、「自由」と「東北の風土」の2部門で作品を募集。岩手県雫石町在住の写真家、奥山淳志氏を審査員に招いた。河北新報社写真映像部の佐々木浩明次長、加藤友一理事（写真部）を含めた5名で、6月7日、東京エレクトロンホール宮城の会議室を会場に審査を実施。甲乙つけ難い秀作の中、入賞21点、入選91点を選定した。

作品は芸術祭写真展と合わせて、7月16〜19日、せんだいメディアテークで展示された。

和菓子職人を招き研修会
茶道部、茶会の代替事業実施

当協会茶道部は6月29日、せんだいメディアテークのスタジオオシアターで研修会を開催した。コロナ禍により、令和4年度の芸術祭に際して、2、3年度に続いて茶会の開催見送りを決めており、今回の研修会は代替措置的な扱いとなる。

研修会には各流派から約120名が参加。茶席に縁のある方をといることで、「和菓子まめいち」店主の幾世橋陽子さんを講師に招き、「お菓子の話 創作和菓子・想像の翼を広げて」の演題で話してもらった。

京都の老舗で修業を重ねた和菓子職人。仙台市本町に店舗を開設、和と洋が融合した菓子を世に送り続け、注目を集めている。

幾世橋さんは映像を流しつつ講和。和菓子に携わる経緯に触れながら、京菓子から創作和菓子作りに至る自身の物語を紡ぎ、「日々精進 日々前進」を大事に「想像の翼を広げる」活動を重ねられる世界の魅力を語った。参加者は明年以降の茶会再開に希望をつなぎながら、お茶にまつわる教養を深めた。

明年、仙台で記念事業実施

東北・北海道芸文協創立50周年 当協会提案の「シンポ」を軸に

令和4年度東北・北海道芸文協文化団体協議会（芸文協）の総会並びに交流事業が6月16日、幹事地区（会長県）の当協会と加盟団体の事務所等をネットて結ぶオンライン方式（Zoom）によるウェブ会議で開催した。

芸文協は東北・北海道地区の七つの総合芸術文化団体により構成。2年交代の輪番制で幹事を回しており、令和4、5年度は当協会が担当する。明年、芸文協創立50周年を迎え、巡り合わせにより記念事業を仕切ることになる。

総会、記念事業の企画案を協議する交流事業は、コロナ禍が収束し切れていないため、昨年度に続いてオンラインで実施。ホストの当協会と各団体が画面を通じて、コミュニケーションをとり、議事を行った。



総会では4

年度の事業計画（案）、収支予算（案）などを可決、承認。本年度発行の機関誌「北斗」47号の特集テーマについては「コロナ禍の下の文化芸術活動（仮題）」とすることを申し合わせた。また、任期満了に伴う新会長に、輪番のルールに従い当協会の吉田利弘理事長を選任。節目の50周年を迎える芸文協をけん引する。

総会に続いて実施された交流事業は、「創立50周年記念事業の企画案の検討」がテーマ。各団体が提示した企画案を集約する形で、当協会が「記念シンポジウムの開催」を軸とするアイデアを提示、期待の声とともに大筋で理解と賛同を得た。

予算の工面という課題を見据えつつ、今後、「（開催に当たっては、人選等で）内向きを排し、情報発信の強化に留意したい」といった指摘も踏まえて、より効果的な事業の実施に向けて企画内容を吟味。随時、他団体と

意見調整を行い、節目の50周年にふさわしいインパクトのある事業に組み立てる。また、開催県の宮城県に支援を求めると、河北新報社にも報道、広報面で協力を求めていく方針。



の趣旨に賛同。

人口減少、高齢化、地域経済の低迷といった芸術文化活動を取り巻く環境が厳しさを増し、共通する諸課題が露わになる中で展開される記念事業。連携して

県制150周年アピール 芸術祭で県に全面協力

7月9日に開幕した「第59回宮城県芸術祭」で、当協会は会場の案内看板やポスターなどにロゴマークを刷り込むなど、節目の県制150周年を強力にアピールした。

宮城県が誕生したのは、明治5（1872）年2月6日。今年が県制150周年に当たることから、宮城の歴史・文化を振り返り、地域の魅力を再発見し、

県内外に宮城の素晴らしさを情報発信する記念事業を企画した。

当協会はそ

試練の克服に立ち向かう、まさに芸文協リスタートの重みを持つ。心を一つに、知恵と汗を結集し、魅力的な計画を立案、次なる50年に突き進む弾みとしたい。



記念事業については、宮城県芸術祭委員会の席上、芸術文化をめぐる情報交換の中で、明年、幹事県としてけん引する旨、説明し、理解と協力を要請した。

記念事業推進連絡協議会に加わり、150周年を祝うとともに、携わる催事を関連事業とし、周知に全面協力することにした。

そのメインに位置付けた県芸術祭は、県制150周年色が漂う装い。各展（絵画、彫刻、書道、華道）の会場、せんだいメディアアテーク5、6階の入退場口の案内看板には、7月26日までの展示系催事の期間中、150周年を伝えるロゴマークが躍り、

ホワイエには宮城県誕生150年のあゆみを伝える県製作のパネルのほりを展示、設置。芸術祭の参加者らへの広報を通じて、記念事業の盛り上げに一役買った。

作品鑑賞の余韻に浸り、高揚した面持ちで展示会場を出てき

た入場者は、大型の展示パネルの前で足を止め、「宮城県も150歳になるんですね」などと話し、作品鑑賞とは異なる感慨を味わっていた。

吉林省との文化芸術交流 9月、県民ギャラリーで

中国吉林省との友好県省締結35周年記念交流事業で、当協会が協力する文化芸術交流の実施要領が固まった。県と調整を進め、9月21～25日、宮城県美術館県民ギャラリーで開催されることになった。

既に、オンライン方式で工芸、写真の2部門による交流展とする方針を決定。かつて実施の交流展に参加経験のある会員や役員らを中心に作品を制作、展示する方向だ。オンラインでも有意義な交流ができるよう、映像を駆使したり、写真データを基にパネルに加工、展示したりと可能な限り工夫を凝らす。

作品制作などの準備作業は、せんだいメディアアテークにおける県芸術祭展示部門の催事終了を待って本格化。記念事業を盛り上げる開会式は、美術館講堂での実施を想定、7月1日に会場を下見した。内容については、

県との調整を進めている。

県との調整を進めている。

期待の新星 組織に活力
入会も早々、決意の初心

本年度、8部門の51人が仲間に加わった。高齢化が進行し、先行き不安が漂い始めており、例年にも増して新入会員への期待は大きい。多くは宮城県芸術祭でデビューした。多士済々。同期を代表する形で、18人が希望の風を吹き込むべく決意の談話を寄せた。4月理事会までに入会が認められた方々で、性別や住所地等を勘案、調整による編集委員会の出稿要請に応じた。

宮城県芸術祭での受賞がご縁で入会となりました。選定いただき、本当にありがとうございます。今後は魚類・古生物などをモデルとして、生命の輝きや悲哀を自由に生き生きと描いていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いたします。

この度は芸術協会の一員に加えていただき心より感謝いたします。人物を描く機会に恵まれ、一念発起。以来、専心してきました。入会を機に、今後は常に変化を求めつつ、自分らしい物が描けるよう、一層、精進してまいります。

(絵画部 小泉留美子・仙台市)

震災後の鬱々とした日々を送っていた折、縁のある仙台市で教室に通い始め、素晴らしい出会いによる継続が入会につながったように思います。大好きな野菜をモチーフに伸びやかな絵を描いていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

(絵画部 風越幸恵・南相馬市)

仙台で絵を描き始めて10年余り。美大卒ですが、子育てや母の介護等で制作から遠ざかっておりました。今回、宮城県芸術協会に入会させていただき、光榮に存じます。皆さまの作品に触れて少しでも自分の世界観を広げてまいりたいと思えます。

(絵画部 堤内一美・仙台市)

長い仕事時代を終え、70歳から青葉アートスクールで油絵を学び始めてから6年がたちます。先生からは大人しいと指摘され、構成、色彩選択に汗が出ます。本質に向かう伸び伸びした表現が目標です。これから、よろしくお願いたします。

(絵画部 梨原 宏・仙台市)

入会を承認賜り感謝を申し上げます。桃源会の先生方より近代詩文の表現や筆を持つことの楽しさを学び、先輩の励ましもあり、現在に至っております。好奇心を持ち続け、「生きてる線」を目標に精進してまいります。よろしくお願いたします。

(書道部 大友博子・岩沼市)

祖父、父と三代続けての会員となります。幼い頃から何度も拝見してきた宮城県芸術祭に出品する機会を頂きましたこと、大変光榮に感じています。わたしらしいものを発表できるように、精いっぱい作品の制作に励みたいと思っております。

(書道部 加納鳴華・大崎市)

好きなことに長い間、地道に取り組んできた結果が評価され、仲間入りが出来たことをうれしく思います。諸先輩方の作品を鑑賞するにつけ、自信を持って言えるようになるには、まだまだ時間がかかりそうです。自己研鑽に努めてまいります。

(書道部 齋 有韻・仙台市)

35年ほど、ご指導いただいた中塚仁先生からお薦めいただき、入会いたしました。書を通して共に学び、その輪を広げるといふ所屬会是の通り、今回、さらに輪が大きくなる節目ととらえ、気持ちを新たにしております。よろしくお願いたします。

(書道部 佐藤玄風・気仙沼市)

「二期一会」、花材との出会いを大切にしています。良き師と巡り合い、50年いけばなの道を歩んでまいりました。ここに入会のご推薦をいただき、多方面でご活躍されている皆さまと一緒に過ごさせていただくこと、新たな出会いに感謝しております。

(華道部 菅野豊翠・塩釜市)

「玄関にお花を飾りたい」という思いから習い始めた生け花。素敵な先生との出会いで長く続けることができ、今回、入会させていただくことになりました。新たな気持ちで作品作りを努力してまいりますので、よろしくお願いたします。

(華道部 戸部秀華・仙台市)

常盤木学園を経て東京音楽大学、同大学院で学びを重ね、現在は仙台に戻り、ソロ、室内楽を中心に演奏活動をしております。まだまだ未熟ではございますが、今後も真摯に音楽に向き合っております。ご指導、ご鞭撻よろしくお願いたします。

(洋楽部 早坂有里亜・仙台市)

50年以上能楽に携わり、宮城宝生会会長、仙台市能楽振興協会副会長の任にあります。古伝居合の普及活動にも関係しております。今般、お仲間に加えていただき、皆さまと共に文化振興に尽力いたしたく存じます。よろしくお願いたします。

(演劇部 村上良信・仙台市)

これまで短歌結社「群山」で表現の喜びを感じつつ、学んでまいりました。また、10人ほどの短歌グループにも所属し、吟行や食事会などを楽しんでいきます。多くの人に短歌の魅力を知ってほしいと思っております。よろしくお願いたします。

(文芸部 戎野ゆき子・仙台市)

坂内佳禰現参事との出会いにより俳句結社「河」(角川春樹主宰)に加わり、俳人協会会員に推挙されたことが入会のきっかけです。常に謙虚で心豊かに句作りに励んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

(文芸部 川原友記子・仙台市)

人間だから、そんなことは当たり前—だろ—うかとの思いから十七文字の世界に飛び込み、10年余になります。川柳ではない、「SENNRYU」を目指して、適度に楽しんでおります。イラストSNRYUの本を出すことが目標です。

(文芸部 三浦幸司・利府町)

定年退職を機に始めましたので、浅い経験しかありません。撮影写真を基にした俳句作りも楽しく、「切り口」に共通点があると思えます。日常生活の中で出会った事柄を材料に、自分なりの表現を追求してまいります。よろしくお願いたします。

(写真部 大友紀夫・仙台市)

コロナ禍で創作の目的が立たなくなったり、度重なる自粛で行動が制限されたり、震災時とは異なった滞るものを実感。原材料費の高騰もあり、撮影しづらくなるばかりですが、培った志の下、創作を続けてまいります。よろしくお願いたします。

(写真部 氏家国浩・大崎市)

令和3年度正味財産増減計算書 [決算]

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

科目	公益目的事業会計					他事業会計	法人会計	合計
	公1	公2	公3	公益共通	公益小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	200	200	0	0	200
受取入会金	0	0	0	460,000	460,000	0	460,000	920,000
受取会費	0	0	0	11,745,000	11,745,000	1,793,870	7,931,130	21,470,000
事業収益	4,643,750	1,394,500	0	0	6,038,250	0	0	6,038,250
受取補助金等	200,000	130,000	0	0	330,000	0	0	330,000
受取負担金	11,818,500	500,000	0	0	12,318,500	0	0	12,318,500
受取寄付金	23,300	40,000	0	100,000	163,300	0	0	163,300
雑収益	250,000	0	0	2,004	252,004	0	0	252,004
経常収益計	16,935,550	2,064,500	0	12,307,204	31,307,254	1,793,870	8,391,130	41,492,254
(2) 経常費用								
事業費	25,107,965	5,017,347	1,126,961	220,000	31,472,273	1,793,870	0	33,266,143
管理費	0	0	0	0	0	0	6,630,915	6,630,915
経常費用計	25,107,965	5,017,347	1,126,961	220,000	31,472,273	1,793,870	6,630,915	39,897,058
当期経常増減額	△ 8,172,415	△ 2,952,847	△ 1,126,961	12,087,204	△ 165,019	0	1,760,215	1,595,196
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	9,008,622	2,952,847	1,126,961	△ 11,314,215	1,774,215	△ 14,000	△ 1,760,215	0
当期一般正味財産増減額	836,207	0	0	772,989	1,609,196	△ 14,000	0	1,595,196
一般正味財産期首残高	5,141,680	0	0	41,563,121	46,704,801	45,500	0	46,750,301
一般正味財産期末残高	5,977,887	0	0	42,336,110	48,313,997	31,500	0	48,345,497
II 指定正味財産増減の部								
受取寄付金	110,000	0	0	0	110,000	0	0	110,000
一般指定財産への振替額	30,000	0	0	0	30,000	0	0	30,000
当期指定正味財産増減額	80,000	0	0	0	80,000	0	0	80,000
指定正味財産期首残高	40,000	0	0	0	40,000	0	0	40,000
指定正味財産期末残高	120,000	0	0	0	120,000	0	0	120,000
III 正味財産期末残高	6,097,887	0	0	0	48,433,997	31,500	0	48,465,497

a: 公益目的事業経常費用計	b: 当年度年間全体経常費用	公益目的事業比率 (a / b)
31,472,273	39,897,058	79%

今回、コロナ対応として温泉旅館宿泊を避けた。一人一室、鶴岡市中心部のシティーホテル、東京第一ホテル鶴岡を利用する。参加費3万2千円。申し込みは9月15日(木)まで。定員40名、先着順。

2日目は藤沢周平記念館(鶴岡市)、土門拳記念館(酒田市)、日和山公園文学散歩道(同)をコースに組み入れた。

そのほかの見学先、初日の文翔館(山形市)は旧山形県庁舎。県庁移転後、国の重文指定を受け、大正初期の建造当時の姿に戻された。近くて知らない意外な穴場。加茂水族館(通称くらげ館・鶴岡市)では、日本の夕陽も楽しみだ。

仙台市の出版社「荒蝦夷」代表で作家の土方正志氏に、『日本のミイラ仏をたずねて』という著作がある。日本各地の即身仏を訪ね歩いた異色のルポとして名高い。今年の文学散歩では、即身仏が集中している山形県庄内地方に足を延ばし、10月6、7日の1泊2日の日程で湯殿山大日坊(鶴岡市)、海向寺(酒田市)の2寺などを訪ねる。土中入定した上人たちになつわる伝承と、守り継ぐ人々、湯殿山信仰秘話に耳を傾ける。

文学散歩参加者募集
「秋の庄内とミイラ寺」1泊2日

令和 3 年度事業報告

(1) 宮城県芸術祭の開催【公益目的事業 1】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 作品点数・出演会員等. Rows include 芸術祭全体, 展示関係事業, 文芸関係事業, 人材育成事業.

(2) 芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業 2】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 作品点数・出演者等. Rows include 鑑賞機会提供事業, 人材育成事業, 後援事業.

(3) 国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業 3】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 備考. Row includes 東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業.

(4) 会員の資質向上のための研修会等の実施及び調査研究並びに出版物の刊行など【他事業】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 備考. Rows include 研修会, 発行.

◎本年度中止事業について

Table with 3 columns: 事業種別, 事業名, 担当部門. Rows include 公益目的事業 1, 公益目的事業 2, 他事業.

山本、鈴木2氏が最高賞 3年ぶり河北美術展で快挙

新型コロナウイルスの感染拡大で3年ぶりの開催となった「第83回河北美術展」において、会員の山本政彰さんが日本画で、鈴木千津さん(運営委員)が洋画で最高賞の河北賞に選ばれた。会員が2部門で同時に頂点を射止めるのは、まれにみる快挙だ。入賞者も多数に上り、特に、日本画部門はほぼ独占状態。11人のうち実に9人を占めた。河北賞以外の入賞者は下段の通り。入選者は100名を上回っており、掲載を見送ります。

事務局日誌

会務報告

- ・【監事会】4月11日
- ・令和3年度事業報告及び会計監査
- ・【第1回理事会】4月15日
- ・令和3年度事業報告及び収支決算について
- ・役員候補者の推薦について
- ・令和4年度定時総会の開催について
- ・正会員の入会について
- ・賛助会員の推薦について
- ・【第2回理事会】5月21日
- ・理事長及び執行理事の選定について
- ・名誉会員の推薦について
- ・参事の推薦について
- ・正会員の入会について
- ・【第1回部長会議】6月8日
- ・第59回宮城県芸術祭について
- ・(第59回宮城県芸術祭実行委員会)

後援

- ☆加納鳴鳳小品展 5月20〜23日
- ☆大崎市民ギャラリー 5月27日〜6月5日
- ☆栗原文化会館 5月27日〜6月5日
- ☆第28回宮城独立美術展 6月3〜8日
- ☆せんだいメデアテーク 6月3〜8日
- ☆第67回全国公募画展南書道展 6月25〜29日
- ☆せんだいメデアテーク 6月25〜29日
- ☆第39回新芸術東北展 6月25〜29日
- ☆せんだいメデアテーク 6月25〜29日
- ☆美里工芸作家グループ展 6月25日〜7月3日
- ☆美里町近代文学館 6月25日〜7月3日
- ☆(公社)日本舞踊協会宮城県支部 6月26日
- ☆第34回各流舞踊公演 6月26日
- ☆電力ホール 6月26日
- ☆第71回登米芭蕉祭俳句大会 6月26日
- ☆登米公民館 6月26日
- ☆第52回展蔵王写生会 7月1〜6日
- ☆せんだいメデアテーク 7月1〜6日
- ☆天の赦すところ、再び7年ぶりの同窓会コンサート 7月5日
- ☆パフィオウわじま 7月7日
- ☆自由学園明日館 7月7日
- ☆ライブドーム 7月9日
- ☆STARJUST 7月9日
- ☆全国やきものフェア inみやぎ 2022 7月14〜18日
- ☆夢メッセみやぎ 7月14〜18日
- ☆第46回素心書道会書展 8月18〜21日
- ☆宮城県美術館 8月18〜21日
- ☆第46回教育書道学生部展 8月18〜21日

- ☆宮城県美術館 8月30日〜9月4日
- ☆宮城県美術館 8月30日〜9月4日
- ☆公益社団法人俳人協会第33回東北俳句大会・宮城大会 9月
- ☆第69回河北書道展 9月3〜6日、9月9〜12日
- ☆TFUギャラリーミニモリ 9月3〜6日、9月9〜12日
- ☆フクロコロ・マンドリン・スティック・フロラ 9月3〜6日、9月9〜12日
- ☆第57回定期演奏会 9月10日
- ☆日立システムズホール仙台 9月10日
- ☆2022仙台オペラ協会第46回記念公演「コジ・ファン・トゥツテ」 9月18〜19日
- ☆日立システムズホール仙台 9月18〜19日
- ☆高橋麻子企画音楽の旅第16弾「ショパンピアノ協奏曲とエレク トーンと共に」 9月19日
- ☆常盤木学園高等学校 9月19日
- ☆トリオ仙台トリオリサイタルシリーズ 9月27日
- ☆宮城野区文化センター 9月27日

会員の入賞・入選など

- ◇(事務局に連絡があったもの)
- ◇河北美術展
- ◇(日本画の部)▽宮城県知事賞 梅森 さえ子▽一力次郎賞 庄子幸一▽東北放送賞 石堂智子▽宮城県芸術協会賞 櫻井伸子▽東北電力賞 富樫清子▽新人奨励賞 千葉えつ子▽審査員奨励賞 荒井静子▽奨励賞(小品枠) 橋本道代(洋画の部)▽JAL賞 伊藤信義▽秋田県知事賞 佐治紅実▽福島県知事賞 其田マサ▽宮城県教育委員会賞 菅原典子▽東北放送賞 大阪祥春▽宮城県芸術協会賞 数本奈智子
- ◇春の院展
- ◇入選 山本政彰

茶道部 (織田流煎茶道)	高橋南鶴 殿	令和3年12月24日
書道部	高橋華苑 殿	2月19日
書道部	大場 修 殿	2月27日
絵画部 (洋画)	佐藤和達 殿	4月19日
茶道部 (裏千家)	大和田宗嬌 殿	6月1日
絵画部 (日本画)	宮村光月 殿	6月7日
文芸部 (俳句)	野田青玲子 殿	6月14日
文芸部 (短歌)	原田夏子 殿	7月11日
文芸部 (短歌)	森 冴美 殿	7月20日

けやきの譜

ロシアによるウクライナ侵攻はいまだ収束の気配が見えませんが、前時代的な暴挙は、誰の欲望を満たす所業なのでしょう。か。理解不能です。戦争は尊い人命を奪い、長い営みが育んだ美しい都市や田園を破壊し、絶望と悲しみしか生まないというのに：▼国連に期待する声もありませんが、その実態は第二次世界大戦の戦勝国連合。その一つ、ロシアの横暴を制することさえできません。幻想にしか過ぎない国連はお金が支配し、新型コロナ対策に深く関わる世界保健機関(WHO)など下部機関も同じです▼日本の周辺には核を脅しに使う国が複数あります。かの国の惨状を対岸の火事のごとくに見ているならば、日本人は何と呑気なことか。祖国は自分たちの手で守るとの気概を持ちたいものです▼芸協は過日、新理事長の下、創立60年に向けて船出しました。わたしたちの未来を守り継ぐ力強いリーダーシップを期待しています。芸術文化は「世界の共通語」。平和構築の基盤にもなり得るのですから。(英)